

令和4年度 自己点検・自己評価について

2) 助産学科

(1) 自己点検・自己評価の概要

- ①全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した、「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- ②自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

(2) 評価内容・方法

- ①評価表：8領域、129の評価項目
- ②評価基準：4段階評定

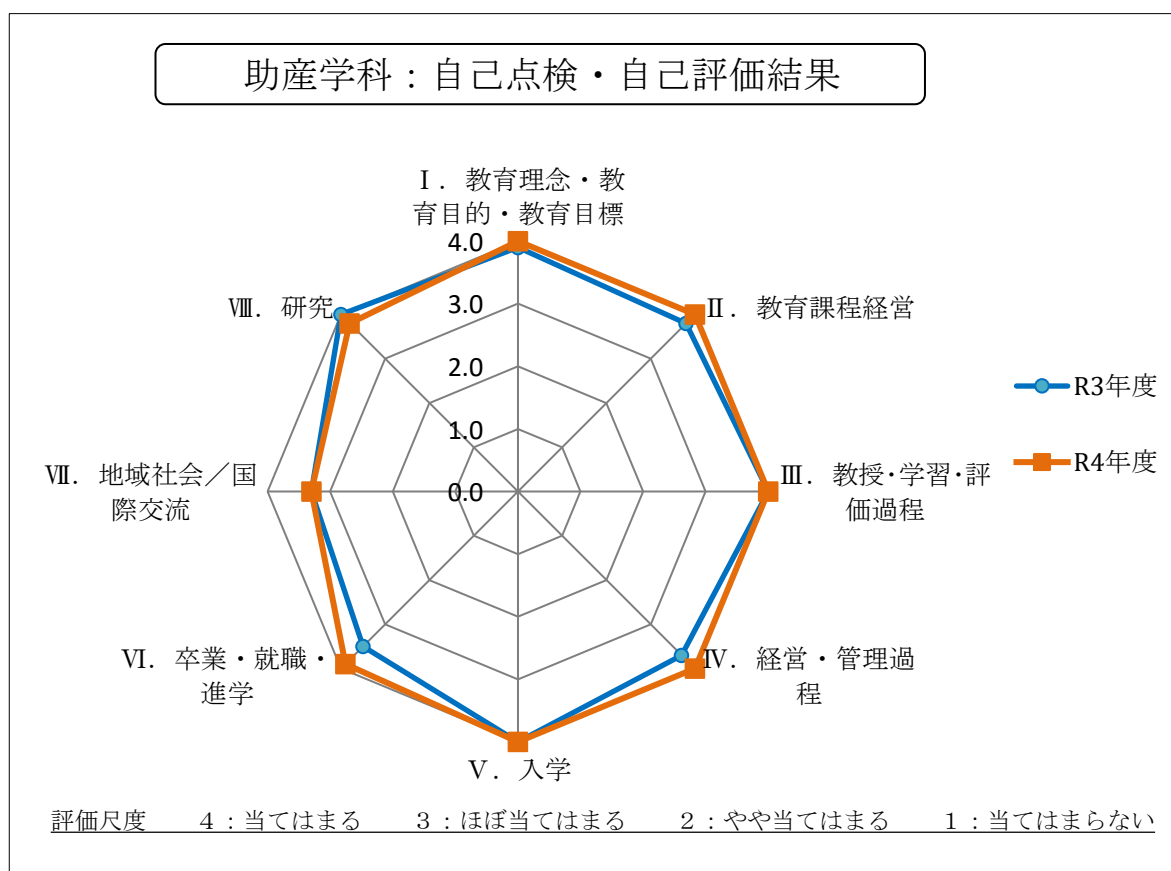
〈4. 当てはまる〉 〈3. ほぼ当てはまる〉 〈2. やや当てはまる〉 〈1. 当てはまらない〉

(3) 評価結果

①結果

全129項目の評価は、4点が120項目、3点が8項目、1点が1項目であり、全体平均点は3.9点で、昨年度より0.1ポイント上昇した。新カリキュラム実施を機に、Ⅰ～Ⅲの内容の整合性が改善された。

とくに、Ⅱ.教育過程経営、Ⅲ.教授・学習・評価過程について重点的に取り組みできた。Ⅶ.地域社会/国際交流については引き続き課題がある。



領域別評価結果

評価内容（領域）	年度別平均点	R3 年度	R4 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標 (法との整合性 教育の特徴の明示)		3.9	4.0
II. 教育課程経営 (教育課程編成の考え方 教育計画・評価)		3.8	4.0
III. 教授・学習・評価過程 (授業展開過程 学習支援)		4.0	4.0
IV. 経営・管理過程 (指針 組織体制 施設設備 学生生活支援)		3.7	4.0
V. 入学 (入学選抜の考え方・妥当性)		4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学 (就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の 学生の状況把握)		3.5	3.9
VII. 地域社会／国際交流 (地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ)		3.3	3.3
VIII. 研究 (研究活動の保障 研究成果発表)		4.0	3.8
平 均		3.8	3.9

(4) 各領域の結果と今後の課題

I.教育理念・教育目的・教育目標

1. 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表2「助産師教育の基本的考え方、留意点」に基づいて、教育目標を設定している。
2. これまでシラバス、学生便覧との整合が課題であったが、R4年度新カリキュラムをもとに、シラバスを作成し、主要概念（人間、環境、健康、看護、助産についての考え方）、教育目標、教育方針を示し、カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）、ディプロマポリシーを明示している。さらに、教育課程の基本的な考え方として、教育内容と科目概要を説明し、教育課程構造図を示し科目の位置づけを明示している。各科目の教育内容、単位数、科目目標、教育内容を一覧にして明示している。
3. これまで学生便覧には「ディプロマポリシー」として、シラバスには「卒業生の特性」としてあげていたことから整合していなかったが、新カリキュラムを機に、「ディプロマポリシー」として明示している。

II.教育課程経営

1. R3年度のカリキュラムでは、周産期を中心とした教育内容となっており、女性のライフサイクルを通じた健康支援に関する教育内容が不足していた。新カリキュラムでは、「ウィメンズヘルス論」を科目立てし充実させた。

2. 実習前教育の充実として、助産診断・技術学に妊婦健診シミュレーション、臨床推論学習プログラムを導入し、関連科目同士のマトリクスを作成し、学習が順序良く進むように時間割進度を調整している。
実習中間、卒業前に分娩介助 OSCE を実施して到達度評価およびリフレクションを行っている。
3. 健康教育実習（両親教室）を従来 11 月に実施していたが、新カリキュラムを機に 9 月に実施した。
その評価として、実習初期に学生の保健指導のレベルを引き上げることができ、その後の継続事例の保健指導では、個別性のある指導ができるようになった。次年度も同時期で計画する予定である。
4. 前年度の課題であった外部講師についての学生による授業評価を今年度は行った。
5. 卒業時の到達度評価のためのデータを集積しており、分析して次年度の教育に活かす予定である。
6. 教員同士の授業案を共有し、授業の質を担保しつつ準備時間の短縮をはかる努力をしている。

【課題】

1. 到達度評価、授業評価の結果を得て、課題に取り組む予定である。

III. 教授・学習・評価過程

1. 新カリキュラム編成時に各科目の関連性、順序性、一貫性を整理し、各科目で教授する内容を精選してシラバスに反映させた。
2. 助産診断・技術学の教育内容について、授業案の共有と実施後の評価をおこない、教員間で教育内容の妥当性を検討した。
3. 学生への連絡や指導内容、実習指導状況は、教員専用 G メールや Google classroom など ICT を活用しており、常に情報共有をはかり、協力体制を明確にしている。
4. 教育評価のためのデータを集積しており、カリキュラムを評価し、次年度の改善に活かしている。

【課題】

1. 新カリキュラム初年度として、教授・学習・評価過程の評価を行う予定である。

IV. 経営・管理過程

1. NH0 本部による「附属養成所の運営方針」に基づいて 6 指標をもとに分析し、令和 4 年度の運営方針を決定している。
2. 全国国立病院附属看護学校 副学校長・教育主事協議会による「看護教員能力開発プログラム (TNAD)」、全国国立病院附属看護学校 副学校長・教育主事協議会中国四国支部による教員の資質向上に向けた研修があり受講している。そのほか、R4 年度より教員の看護管理研修を行っている（3 月）。授業研究は NH0 併設校 3 校の教員による授業リフレクションを行った（2 月）。
3. R3 年度は入学生 12 名であったが、今年度は 15 名を確保した。毎月の実習謝金、実習旅費の実績を確認し、教育環境充実費（実習経費含む）の範囲内でおさまっているか確認している。COVID-19 の影響で旅費が増加しているため、年度の動向も把握している。
4. 指定規則に基づいた教材・教具を整備している。高価な教材については劣化に応じて計画的に更新している。超音波診断装置の操作の演習に使用していた高額医療機器が老朽化し修理不能となったが、病院の医療機器更新時に廃棄される機器を譲渡してもらうなど有効活用した。演習室は、学生の自己練習のためにいつでも活用できるようにしている。物品点検の記録、物品台帳等の記録についてはわかりやすく整理されておらず課題である。
5. R3 年度より学生生活の支援について、Google Classroom を導入しており、十分活用している。

【課題】

1. 物品管理について、点検の記録、台帳等の記録についてはわかりやすく整理する必要がある。

V. 入学

1. NH0 附属養成所としての役割、運営方針をふまえ、学校運営会議での検討を経て、R4 年度より特別推薦の受験資格について、「卒業後、国立病院機構または岡山県内の施設で助産師として勤務する意思のある者」を追加し改定した。
2. 応募者の確保については、ホームページへ学科紹介の動画を増やし、R5 年度入学生的一般入試は 42 名と過去最多の応募者数を確保した。

【課題】

1. 引き続き、定員を充足させ、質の良い学生を確保するために広報活動に取り組む。

VI. 卒業・就職・進学

1. 卒業時の実践能力については、実習経験録、実習評価表からみた到達度、卒業時到達度調査（厚労省：助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度）の自己評価を集計し分析している。また、分娩期の実践能力については、卒業前に「分娩介助 OSCE」を実施する予定である。
就職先での評価は、実習先や NH0 への就職者については評価を把握している。
2. NH0 病院や実習病院へ就職した卒業生については情報交換ができています。今年度は卒業生を対象にホームカミングディを実施し情報提供、フォローアップをはかった。また、在学中の Google Classroom を卒後 1 年間は残し、卒業生へのお知らせややりとりができるようなプラットフォームとしての活用を行っている。
3. 卒業生への支援体制については相談にのる体制はある。就職後の定着状況を追跡調査はしていない。

【課題】

1. 卒業生の動向について、R3 年度卒業生に対して、3 月現在での配属先、分娩介助状況について Google フォームでの調査を検討する。

VII. 地域社会/国際交流

1. ホームページ上で教育状況について公開している。また、学生祭をオンライン開催し、地域住民向けに学校の紹介や教育活動を紹介した。オープンスクールでは、公開講座を実施している。また、学校主催で、学生による健康教育実習「両親教室」を地域住民対象にオンラインで実施した。
2. 学生のボランティア活動については、助産学科の場合、課外活動としてのボランティア活動はカリキュラム上難しい。実習に関連する施設でボランティア活動がある場合は積極的に参加している。
3. 養成所が設置されている地域の諸資源の把握については、岡山県ホームページにより把握できる。学生の地域母子保健実習において地区診断のデータベースになっており、教職員は学生とともに地域の診断を行っていることから把握している。
4. 国際的視野を広げるための教育内容について、地域母子保健、助産管理学のなかに在日外国人の母子保健、助産師の国際活動、諸外国の出産ケアについての教育内容を設定している。
5. 学生が自由に使えるインターネット環境について、オンライン講義ができる設備はあるが、学生が自由に使えるインターネット環境（Wi-fi など）は目的外利用などを避けるため、整備していない。
6. 海外からの帰国学生や留学生の受入れ体制はない。

【課題】

1. 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制は十分ではない。希望があれば英文での卒業証明や単位証明を発行する対応のみとなっている。

VIII.研究

1. 教員研究には助成金（1人あたり25万円/年）あり、計画的に使用している。
2. 教員の授業改善のための振り返りを行い記録に残している（妊婦健診シミュレーション、臨床推論学習プログラム、分娩介助 OSCE）。
3. 2月に NH0 の助産学科 3 校合同で授業研究として、健康教育実習（両親学級）の授業リフレクションを行い、情報共有や教育実践能力の向上に取り組んでいる。
4. 研究については、「助産学生の臨地実習前の妊婦健康診査シミュレーション教育の取り組みとその評価」について、データをまとめている段階である。R5 年の日本母性衛生学会での発表を目指している。

【課題】

1. 次年度に学会での研究発表を 1 題以上行う。